

2016年5月28日
公益財団法人翁久允財団

平成27年度事業報告

1. 研究者・芸術家の援助その他（推薦）

平成28年3月19日開催の翁久允賞選定委員会の結果、平成27年度の該当者はなしと決定した。

富山県の文化に貢献した翁久允の意志を引継ぎ、学術、技術、芸術、思想等に貢献し得る郷土に関係した人材の奨学に資すること、および翁久允の業績を後世に知らしめる活動を目的とすることを明記する。

2. 奨学金の貸与ならびに給付(翁賞)

富山県高等学校長協会の推薦により、15名の県内高校卒業者に賞状および以下の景品を贈った。

人間国宝須賀松園作文鎮「魁(さきがけ)」
逸見久美・須田満編「翁久允年譜」

3. 翁久允の偉業を後世に伝える事業

・「翁久允年譜・書誌・参考文献」の刊行準備のため翁久允が在米時代に編集した雑誌「太平楽」（天理大学附属図書館所蔵）、富山社交倶楽部所蔵の機関紙「社交」、昭和初期、戦中戦後の富山の地方紙の記事を主に富山県立図書館及び富山県立図書館の協力で複写した。

・ワドワ駐日インド大使が2度にわたって富山を訪れた際に、翁久允とインドの関わりに興味を持ち、公益財団法人日印協会より翁久允とインドに関する資料提供の依頼があった。同協会元事務局長・青山鉦一氏が、「月刊インド」2015年9月号に「もう一つの日印関係～翁久允とタゴールの邂逅～」を掲載した。また2015年10月30日同協会にて須田満が「翁久允とタゴール」を講演。

- 須田満著「翁久允研究の方向性について --そのコスモポリタニズムと複合アイデンティティーをめぐって--」が「日本比較文学会東京支部 研究報告」No. 12-2015 に掲載された。
- 2016年3月21日～5月16日に高志の国文学館で開催された「夢二の旅 --たまき・翁久允とのゆかりにふれつつ」に協力し、資料提供した。
- 高志の文学館の協力で、翁久允資料の電子画像化が開始された。
- 2016年12月に放映予定の北日本放送「翁久允」の取材に協力し、立山町六郎谷の親戚縁者を研究者とともに訪問。